

環境保全学ぶ県大生 トンボ公園で実習

四万十市

【幡多】環境保全について学ぼうと、高知県立大学の学生がこのほど、四万十市具同のトンボ自然公園で実習を行い、園内の池でスイレン引きなどを体験した。

県大の地域学実習の一環で、14日は受講する看護学部の2年生5人が胴長を着用し、膝上まで池に漬かりながら作業。泥に足を取られながらも、スイレン



スイレンを引き抜く県大生
(四万十市のトンボ自然公園)

や外来種の水草などを根っこから引き抜いて

いった。

同公園を管理する「トンボと自然を考える会」の杉村光俊さん(65)は「若い人が環境に興味を持ってくれてうれしい」。花沢ひとみさん(19)は「自然保護への職員さんの強い意志を感じた。ボランティアを募っていることなどを広く知ってもらうためにアイデアを提案していきたい」と話していた。

(平野愛子)